

白河高校同窓会報

発行所
 郵便番号 961-0851
 福島県白河市南登り町54
 白河高校同窓会
 ☎0248-24-1116

発行人
 鈴木雅文
 編集委員長
 堀川哲雄

(南古楓堂堀川印刷所)



校長 増子文隆(高36)

「登龍」へ君はどこまで登っていきけるのか、
 挑戦する君を待っている」

皆さんこんにちは。白河高校第38代校長の増子文隆(高36)でございます。同窓会の皆様には日頃より多大なるご支援・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。おかげ様をもちまして、本校も今年度で102周年を迎え、伝統を引き継ぎながらも更なる高みを目指して邁進しております。サブタイトルの言葉は、今年度の学校パンフレットにも載せて、中学生にもアピールしているものです。「君も登龍健児になり、青春を謳歌しよう」を合言葉に、同窓会の皆様にも是非、未来の白高生に語りかけていただければと思います。

本校の教育活動に関しては、昨年度始まった「保健・医療コース」に加え、来年度から始まる「教育コース」の前段階として、市内の小中学校における研修を企画したところです。未来の教育者を育てるため、教育事務所や市教委との連携を深めながら取り組んでまいりたいと思います。

また、英語学習の推進に向けて、AIプログラムを用いた先進的な学習を県の指定で行います。英語の4技能をすべて伸ばせるというシステムで、学校ではもちろん家庭学習においても、各自の実力にあった段階から学習できます。特に、スピーキングの力も伸ばせることが特徴です。大学入試やグローバル化する社会に対応するためにも、大いに期待できる学習法です。

今春の卒業生の進学実績は、東工大をはじめとする国公立大学に、延べ118名が合格し、私立大学にも早稲田大をはじめとして106名の合格者を出しており、高い実績を残してくれました。

部活動においては、昨年度も多く部の活動が地区大会や県大会で活躍し、インターハイには剣道部と弓道

部が出場し、全国高文祭には写真部と書道部が参加して、まさしく文武両道を体現しております。

「質実剛健」「文武両道」の精神のもと、登龍魂を持った学生を育ててまいると思いますので、今後とも変わらぬご支援・ご協力のほどお願い申し上げます。



『きみは毎日出發する』
 2001年作(130cm x 97cm) キャンバスに油彩

新しい世紀に向けて



同窓会長 鈴木雅文(高28)

母校 白河高校も100周年の節目を経て、新しい世紀に向かって歩を進め始めました。その中において、本年は4月8日に令和6年度の入学式が挙行されました。100年という歴史と伝統を紡いできた母校となる校舎の体育館において、緊張した中にも新しい学校生活に目を輝かせている凛とした新入生を目の当たりにして、この生徒たちが母校発展のため、将来の同窓会を支えて、さらには将来の日本をリードする人材となるであろうとの思いを巡らせ、新入生が頼もしく感じられるひと時でありました。

さて、私は卒業から50年になろうとしておりますが、いまだに一年に一度、もしくは二年に一度の同級会を開いております。よくやっていると一言葉をいただきますが、そろそろだねという発起人と少しの労力を提供してくれる2、3名のお世話係がいればできてしまいます。そ

してそこで感謝の言葉と旧交を温めての思い出話を咲かせることで労苦はいとも簡単に霧消してしまいます。このような横の連携に縦のつながりを太くし、「会員相互の親睦」と「母校と後輩たちの発展を図る」という目的を付与したものが同窓会であると私は考えております。決して敷居は高くありません。同窓会に何らかの形で参加をし、自ら作り上げていくものが同窓会であり、その歴史であると思えます。是非皆様のご参加を待ち申し上げておりますし、その場において今後の同窓会の在り様や運営のアイデア等をいただければ、益々活発になり、活性化すると思えます。少子高齢化のこの時代を白河高校同窓会が母校白河高校とともに今後生き残っていくためには多くの方々のご参加をいただく以外には術がありません。どうぞ今後ともご協力をお願い申し上げます。

令和6年度同窓会総会開催

去る5月25日、令和6年度白河高等学校同窓会総会を関係者約60名の参加により東京第一ホテル新白河にて開催しました。

横村勝己事務局長(高37)の司会進行のもと、金澤隆夫副会長(高23)が開会を宣言し、参加者全員で校歌斉唱を行った後、この1年間のうちに逝去された会員の方々のご冥福を祈つて、黙祷を行いました。次に鈴木雅文会長(高28)からの挨拶があり、続いて増子文隆校長(高36)から白高の近況報告とこの春に赴任した吉田秀敏教頭(高39)をはじめとする学校体制の紹介を含めた挨拶をいただきました。

その後、各支部より出席された皆様方の紹介が行われ、支部の皆様を代表して東京登龍会会長の加藤直二氏(高27)より挨拶がありました。また、来賓を代表して福島県議会議員



の三村博隆氏(高41)、後援会会長の宗田浩一氏(高43)からご祝辞をいただきました。議事では、慣例により還暦を迎えた高34回卒業生の中から見正則氏が議長に選出されました。始めに庶務の須釜俊男氏(高40)から令和5年度事業報告、会計の金澤博信氏(高29)から令和5年度決算報告と会計監査の実施報告があり、それぞれ満場一致で承認されました。

続いて須釜氏から令和6年度事業計画(案)、金澤氏から令和6年度予算(案)が提案され、それぞれ満場一致で承認されました。

その後、横村事務局長から創立100周年記念事業実行委員会(令和6年2月9日解散)より引き継いだ一般寄附残金を「創立100周年記念事業基金」(寄附者の意

思を踏まえ、使途を生徒支援、または周年記念事業に限定した基金)として同窓会の運営経費とは区別して管理するための会計細則の制定が提案され、満場一致で承認されました。最後に石塚次男副会長(高26)が開会を宣言し、総会を終了しました。



令和7年度総会のお知らせ

期日 令和7年5月24日(土)
講演会 16時~17時
総会 17時~18時
懇親会 18時~
場所 東京第一ホテル新白河

※詳細につきましては、令和7年4月頃、ホームページに掲載いたします。

100周年記念事業が完了

白河高校創立100周年記念事業の全てが完了し、実行委員会が2月9日に解散総会を行いました。

◎主な100周年記念事業

○募金

募金総額約5550万円

寄付者1950人

○式典

・創立100周年記念式典

・記念講演会

・齋藤孝明治大学文学部教授

令和5年10月22日

白河文化交流館コミネス

○記念事業

・登龍会館改修工事

・工事費・設計管理費

3204万円

○同窓会名簿

令和2年1月発行

○記念誌編纂

本編「登龍」と山岳遭難の記録「星六つ」を發行

その用途は寄付された方々の意思を踏まえ、同窓会の運営経費とは区分して生徒支援のために使用することと致しました。

創立100周年記念事業 決算

1. 収入 (単位:円)

Table with 4 columns: 項目, 予算額, 収入額, 予算残額. Rows include 協賛金, 寄付金, 雑収入, 合計.

2. 支出 (単位:円)

Table with 4 columns: 項目, 予算額(補正後), 支出額, 予算残額. Rows include 総務費, 顕彰費, 記念事業費, 記念式典費, 記念行事費, 記念誌費, 合計.

3. 差引残額
収入合計 56,999,275円 - 支出合計 49,902,468円 = 7,096,807円

令和5年度 白河高等学校同窓会決算書

収入の部 (単位:円)

Table with 4 columns: 項目, 令和5年度予算, 決算額, 備考. Rows include 繰越金, 入会金, 賛助金, 同窓会基金より, 創立百周年関係, 雑収入, 合計.

支出の部 (単位:円)

Table with 4 columns: 款, 項目, 令和5年度予算, 決算額, 備考. Rows include 総務費, 教育助成費, 事業活動費, 基金, 予備費, 合計.

令和6年度 白河高等学校同窓会予算書

収入の部 (単位:円)

Table with 4 columns: 項目, 令和6年度予算, 対比増減, 備考. Rows include 繰越金, 入会金, 賛助金, 同窓会基金より, 雑収入, 合計.

支出の部 (単位:円)

Table with 4 columns: 款, 項目, 令和6年度予算, 対比増減, 備考. Rows include 総務費, 教育助成費, 事業活動費, 基金, 予備費, 合計.

同窓会基金の総額は3,439,217円、創立100周年記念事業基金の総額は7,096,836円となります。

令和 6 年度白河高校同窓会講演会

日本の救急・災害医療の現状と
福島県南地域の未来

ドクターヘリ、ドクターカーの現場から

JA福島厚生連
白河厚生総合病院 救急担当部長
福島県立医科大学
地域医療支援センター 特任教授

安田 貢 (高34)



略歴

昭和57年白河高校普通科卒業、同年筑波大学医学群入学、平成元年同校卒業、医師国家試験合格後、筑波大学脳神経外科入局その後、筑波大学脳神経外科関連病院に勤務し、平成20年筑波大学救急・集中治療学講師、平成24年 国立水戸医療センター救命救急センター長、令和2年茨城県医療統括監などを歴任し、令和6年4月から現職

資格
日本救急医学会専門医、日本脳神経外科学会専門医、日本航空医療学会指導医師、感染症制御医、日本DMAT統括隊員など

(1)日本の救急医療(ドクターヘリなど病院前救護学)

現在ドクターヘリは日本全国で56機が運航、地域間相互乗り入れなどの協定を結び重症傷病者に対して消防と連携して活動している。重症傷病者の迅速な搬送、早期医療介入そして災害有事・多数傷病者事案などに大きな効果を発揮している一方、航空医療の土台である「陸の救急」の現状、救急重要請件数(119番通報)は、新型コロナウイルス感染症流行によって一時少なくなつたものの全国で年間723万件(2022年速報値)と15年前に比べ41・8%増加し、病院前救護体制や救命率に大きな影響を及ぼしている。主な要因である軽症者の救急車利用が現場到着時間遅延を招いており「#7119」など救急車の適正利用が一人一人に強く求められている。

(2)福島県と県南地域の実情(救急医療)

第8次医療整備計画(202

9年度まで)で4圏域を救急医療圏として定め、白河市は県中・県南医療圏に含まれた。白河厚生総合病院に救急車初療を担当する総合診療科が開設されて9年が経過し、発足前と比較して救急車の応需台数は1,000台増加して年間3,500台を受け入れ治療を行っている。また、当地域は全国的に困窮している小児周産期領域において大変恵まれており特筆すべき事項である。

インフルエンザなどと同様の扱いはなくなった。社会生活も制限がなくなつた一方で個々人の対応策が重要となった。感染症流行当初は様々な情報が錯綜していたが、結果的に古くから継続されている対策に勝るものはないと再認識させられる結果であった。

急指導医の存在により病院前救護の質を向上させる↑日本トツプレベルの病院前救護医学者として地域貢献
▽市民医療教育の充実・出前講座や白河高校などとの連携事業
↓次世代の医療人を育成
▽市民環境整備・白河市へ最新式AED寄贈↑公益的NPOの支援

(3)自分自身や身近な人を守るために

有事対応スタイルのうち、後追い型の対応は人命が失われており、事前対応型が望まれる。しかしながら、それを公的支援に期待することは困難な場合が多い。自然災害など広域的危機だけでなく、個々人の日常危機管理として環境や疾病により生じる病院前心肺停止は自宅や職場で発生し、その数は交通事故死の50倍である年間12~14万件に及ぶ。自身や家族、同僚の安心・安全を確立するためには、心肺蘇生法やAEDなど一人一人の正しい緊急処置習得が求められる。

正しい環境整備(換気など)の防御効果が確定している。インフルエンザ感染症などと異なり、決定的治療薬のない新型コロナウイルス感染症は感染しない事が第一である。自分自身や家族、同僚を守るために不正確な情報に惑わされない正しい知識の習得が強く求められる。

白河高校OB O Gや地元関係者の皆さんと協力して、県南地域医療向上に力を尽くせることは喜びの極みであると感じている。

●県南地区の今後の救急医療展望(私見)

▽一医師として臨床現場で患者の診察・白河厚生総合病院と10年前から支援している大震災後の福島第一原発救急医療室や富岡町の県立ふたば医療センターで医療面から震災復興に貢献

▽白河ドクターカーの実現化…20年間の病院前救護経験を活かして、白河地方消防管内で試験運用から開始することを目指す↓安心安全な街づくりに貢献

(4)新型コロナウイルス感染症対策

2024年3月末をもって新型コロナウイルス感染症に対する医療の特別扱いは終了となり

日本の救急・災害医療の現状と
福島県南地域の未来

ドクターヘリ、ドクターカーの現場から



JA福島厚生連
白河厚生総合病院
救急担当部長
福島県立医科大学
地域医療支援センター
安田 貢(高34)

母校だより

人事異動

令和6年度の人事異動は次のとおりです。

3月末には、矢森健一校長と小田賢二教頭、村井由雄事務長が本校でご退職を迎えたのをはじめ、計13名の教職員が異動となりました。また、4月1日には、川口高校より増子文隆校長を、会津高校より吉田秀敏教頭を、県建築住宅課より柳沼徹事務長をお迎えし、計14名の教職員が着任しました。

このたび退職・転出された同窓の職員・先生方は以下のとおりです。

- 大竹儀一先生(高31)ご退職。
 - 鐘水 実先生(高33)ご退職。
 - 村井由雄事務長(高34)ご退職。
 - 鈴木晃夫先生(高43)光南高校へ。
- また、着任された同窓の先生方は、以下の4名です。
- 増子文隆先生(高36) 学校長 前任は川口高校校長です。
 - 吉田秀敏先生(高39) 教頭 前任は会津高校教頭です。
 - 鈴木智紀先生(高66) 英語担当 須賀川市立第三小学校からの転入です。

折笠大軌先生(高71) 保体担当 岩瀬農業高校からの転入です。校長をはじめ、多くの先輩教員が、温かい目で生徒を見守り、応援してくれると思います。



教頭 吉田秀敏 (高39)

今年度4月より、会津高校教頭から白河高校教頭として母校に着任いたしました。私は、昭和59年度入学、61年度卒業の高校39回のOBです。これまで二度、白河高校で教諭として勤務し、担任として4回卒業生を送り出しました。クラス規模も様々で、それぞれ9クラス、8クラス、7クラス、そして現在と同じ6クラスの学年で担任を経験しました。その多くの卒業生が、白河で学んだこと、経験したこと、を糧とし、今では立派な社会人として多方面で活躍しています。一例ですが、現在、白河市議会議員として活動している卒業生もいます。

改めて、同窓会役員や会員の皆様よりいただいたこれまでのご支援に感謝を申し上げますとともに、皆様のご期待に添えるよう職責を果たして参ります。



講師 鈴木智紀 (高66)

白河高等学校を卒業した平成26年3月から10年が経ち、このたび英語科教員として母校に戻って参りました。久しぶりに見た校舎はあの頃の面影を残したままで、学生であった日々を容易に思い出すことができました。級友たちと時には競い合い、時には励まし合いながら過ごした教室を見て、あの3年間の尊さを再確認するとともに、今を生きる子どもたちにとつても、いつまで経っても色褪せることのない、かけがえのない3年間にしてあげたいと深く感じました。私にできることは、まだまだ諸先輩方に遠く及びませんが、子どもたちにとつて最高の3年間をコーディネートできるように、全力で頑張りたいと思います。よろしく願いいたします。



講師 折笠大軌 (高71)

母校である白河高校に身を置

くことができ、身が引き締まる思いです。部活動と勉学に本気で取り組んだ母校白河高校で、ちと共に過ごすことができ、有意義な日々を送っています。教壇に立つ先生方の授業を受けていた6年前とは正反対の立ち位置にいることは何とも言えないものでありますが、生徒たちの

ために尽力したい所存でありま す。保健体育の授業を通じ、生徒が将来を健康で安全に過ごせる支援をしていきます。そして、生徒が自分に自信を持ち社会に出てから活躍する人に成長できるように、私自身も生徒と共に学びながら過ごしていきます。よろしくお願いいたします。

後援会だより



後援会会長 宗田浩一 (高43)

第21回後援会総会は、令和6年4月27日(土)に白河高校大体育館で行われ、全議案が可決承認されました。特に今年度は積立基金の一部を取り崩して校内の修繕や野球部屋内練習場のテナト張替え等を行うこととしております。

また、令和2年度から始まったすべての特別教室へのエアコン設置事業では、令和5年度は化学実験室に設置完了し、今年度は物理実験室への設置を予定するなど、後援会といたしまして、も限られた予算をより大切に、丁寧に、できる限り生徒の学習環境を整えるためのバックアップをさせていただきたいと考えています。今後とも何卒ご協力のほど宜しくお願いいたします。登龍健児の皆さんには自分の進路目標達成のため、日々努力を重ねていただきたいと思います。登龍健児の活躍と先輩諸兄の益々のご清栄を心より祈念いたします。

進学報告

千葉大学に進学して



大谷純怜

こんにちは！私は現在、千葉大学文学部国際言語文化コースに在籍しています。大学の生活にも一人暮らしにも少しずつ慣れてきました。大学は自分で好きに授業を組むことができ、自分の興味のある分野をとことん学ぶことができます。私はいま日本と欧米の音楽の比較の研究をしています。もともと好きだった英語と音楽を融合させた研究ができてとても楽しいです。授業はもちろん、部活やアルバイト、遊びなどと毎日充実して過ごしています。1年前受験勉強を頑張つてよかったです。3年生の皆さんは受験まであと少しとなり、今が一番つらい時期にあると思います。ここを乗り越え、最後まで粘った人が合格を掴み取ると思います。頑張ってください！心から応援しています！！

富山大学に進学して



小山田理奏子

私は現在、富山大学人文学部に在籍しています。1年次は、必修の英語や体育、情報を含め、異なる学部の人と一緒に授業を受ける教養科目が多くなっています。私の学部は、2年次以降に希望のコースに進むためには1年次前期に良い成績をとる必要があり、レポート提出やテストに向けたスケジュール管理が大変でした。授業以外では、私は、サークルやアルバイトの他に富山大学ならではの「ピアサポート活動」に取り組んでいます。障がいをもつ学生の支援が目的で、活動を通してアクセシビリティリーダーという資格の取得も目指しています。大学生になった今、仲間と切磋琢磨できる高校3年間は貴重だなと感じています。つらい日々でも楽しさを忘れず、進路実現に向けて頑張ってください！

明治大学建築学科に進学して



金澤佑真

私は現在、明治大学理工学部建築学科に在籍しています。明治大学と聞くと東京の都心のキャンパスを想像すると思いますが、理工学部と農学部は神奈川県が生田という場所にあり、さほど人が多くはなく自然もあり田舎出身の私からすると、とても住みやすい場所です。理系なので毎日大学がありますし1限、5限も多くあります。もちろん課題やレポートがあるのでアルバイトやサークルをしていると、僕が思っていた大学生活よりもかなり忙しく感じます。ですが、新しい友達と出会い、自由な時間ができ、とても楽しい生活を送れています。建築学科は理系ですが、歴史や理論、思想も学ぶので文系要素もあり、多方面のことを学べ、とても魅力的な学科です。皆さんぜひ、建築学科へ！

早稲田大学に進学して



宗田大河

私は早稲田大学教育学部に在籍しています。入学から半年が過ぎ、少しずつ一人暮らしにも慣れ始めてきました。おそらく大学の自由さなどは他の方が語ってくれると思うので早稲田ならではの話をしたいと思います。早稲田大学にはおよそ3000を超えるサークルがあり、高校時代にはいなかったような人が沢山います。また早慶戦などの観戦に行ってみると強烈な愛校心を持つ卒業生の方がたくさんいます。彼らを目の当たりにすると、同じく強烈な愛校心を持つ白河高校の先輩方の存在が脳裏によぎり、一人嬉しい私です。もちろん大学は大学で楽しいですが、今になってみるとやはり高校生という時間は貴重であったと実感しています。何気ない毎日をぜひ精一杯楽しんでください。

同窓会ホームページ開設のお知らせ

このたび、白河高等学校同窓会のホームページを公開いたしました。

同窓生の皆様のお役に立てるコンテンツの充実と情報発信に努めてまいります。

住所変更等がございましたら、ホームページからご連絡ください。

連絡可能な内容

- ・氏名の変更
- ・住所または電話番号の変更
- ・勤務先の変更
- ・逝去のご連絡 等

(逝去のご連絡をされる場合は、本人との間柄が明確にわかるように必ず連絡者を備考欄にご入力ください。)



白河高校同窓会
ホームページ

<https://dousoukai.site/toryuu/>

進路報告

現役国立大学合格者

118名!

進路指導主事 小野寺洋子

令和5年度卒業生230名のうち、
四年制大学の進学者は210名。全
体の91・3%と、非常に高い比
率でした。内訳は国立大学が
104名、私立大学が106名です。

国立大学には東京工業大、
東北大などの難関大学を含め、
延べ118名が合格しました。これ
は卒業生の約5割の生徒数に当
たります。合格者が100名を超え
たのは5年ぶりで、6クラスに
なつてからは初めてです。私立
大学は、早稲田大、明治大、青
山学院大、立教大、中央大、法
政大、東京理科大等に延べ369名
が合格しました。失敗を恐れず、
粘り強く果敢に挑戦する姿勢が
結果につながつたと思います。
卒業生を励まし、支えたご家
族や地域の皆様、同窓会の皆様
に改めて感謝申し上げます。

令和5年度卒業生 大学等合格状況一覽

《国立大学・準大学》

学 校 名	男	女	計
北教大函館校		1	1
室蘭工大	1		1
弘前大	1	1	2
岩手大	1		1
東北大	1	3	4
宮城教育大		4	4
山形大	3	1	4
福島大	13	13	26
茨城大	2	2	4
筑波大	1		1
宇都宮大	2	3	5
埼玉大	1	4	5
千葉大	4	2	6
電気通信大	1		1
東京工業大		1	1
東京農工大	1		1
横浜国立大	1		1
上越教育大		1	1
新潟大	5	3	8
富山大		1	1
山梨大		1	1
琉球大	1		1
釧路公立大	1		1
名寄市立大		1	1
青森県立保健大		1	1
宮城大	1		1
秋田県立大	1	1	2
会津大	2	1	3
福島県立医大	4	5	9
群馬県立女子大		2	2
高崎経大	1	2	3
埼玉県立大		2	2
神奈川保福大		1	1
横浜市立大	1	1	2
新潟県立大		5	5
都留文科大		4	4
名城大		1	1
国立大学合計	50	68	118
準大学合計			
国立大学+準大	50	68	118

《私立大学》

学 校 名	男	女	計
東北医薬大	1	1	2
東北学院大	8	10	18

学 校 名	男	女	計
東北福祉大		4	4
医療創生大		1	1
奥羽大		2	2
足利大	1		1
国際医療福祉大	2	8	10
白鷗大	13	16	29
上武大	2		2
桐生大		2	2
埼玉医大		1	1
埼玉工大	1		1
城西大	2	5	7
東京国際大	3		3
獨協大	2	2	4
文教大	4	7	11
平成国際大	1		1
共栄大		1	1
人間総合科学大		1	1
国際武道大	1		1
淑徳大		1	1
聖徳大		1	1
千葉工大	8		8
東京情報大	1		1
青山学院大	3	1	4
亜細亜大		1	1
桜美林大		2	2
学習院大		4	4
北里大		2	2
杏林大	2	2	4
工学院大	2		2
国学院大	1		1
国土館大	1		1
駒澤大	1	5	6
実践女子大		1	1
芝浦工大	4	1	5
順天堂大	2	2	4
昭和女子大		2	2
昭和薬大	1		1
女子美大		1	1
成蹊大		3	3
聖心女子大		1	1
専修大	2	8	10
大正大		2	2
大東文化大	3		3
拓殖大	1		1
玉川大		2	2

学 校 名	男	女	計
中央大	4	6	10
東海大	16	9	25
東京経大	1		1
東京工科大	1	1	2
東京女子大		2	2
東京電機大	1		1
東京農大	1	2	3
東京理大	2	2	4
東洋大	17	12	29
日本大	27	2	29
日本女子大		2	2
法政大	9	10	19
武蔵大	1		1
武蔵野大	2	2	4
明治大	2	3	5
明治学院大	1	2	3
明治薬大		1	1
明星大	3		3
立教大	3	8	11
立正大	2	1	3
早稲田大	1		1
東京医療保健大		2	2
神奈川大	6	5	11
関東学院大	3	2	5
横浜商大	1		1
新潟工科大	1		1
新潟医療福祉大	1	1	2
中京大		1	1
大谷大	2		2
京都産業大	1		1
京都芸術大		1	1
同志社女子大		1	1
立命館大	1		1
龍谷大	2		2
近畿大	2		2
関西学院大	1		1
私立大学合計	188	181	369

《短期大学》

学 校 名	男	女	計
山形県米沢女短		1	1
会津大短大部		1	1
郡山女大短大部		3	3
日本大短大部	1		1
短期大学合計	1	5	6

《専門学校》

学 校 名	男	女	計
公立岩瀬病院附属看護		1	1
太田看護専門		1	1
白河厚生病院附属高看		4	4
仙台ECO動物海洋専門学校		2	2
東放学園専門学校		1	1
日本工学院八王子専門学校	1		1
専門学校合計	1	9	10

《予備校等》

学 校 名	男	女	計
予備校・塾	1	3	4
自宅浪人等	3	1	4
合 計	4	4	8

令和5年度卒業生 合格先状況一覽

学 校 名	男	女	計
国立大学(含 準大学)	50	68	118
私立大学	188	181	369
四年制大学合計	238	249	487
短期大学	1	5	6
専門学校	1	9	10
留学			
就職(含 公務員)			
その他			
小 計	2	14	16
合 計	240	263	503

令和5年度卒業生 進路先状況一覽

学 校 名	男	女	計
国立大学	34	39	73
公立大学	11	20	31
私立大学	53	53	106
四年制大学合計	98	112	210
短期大学		4	4
専門学校	2	6	8
就職(含む公務員)			
留学			
その他			
小 計	2	10	12
次年度進学予定者	4	4	8
合 計	104	126	230

※詳細は、学校ホームページをご覧ください。

登龍祭



「登龍祭〜龍遊〜」開催

3年 緑河 由奈

8月30日から9月2日にかけて、3年に一度の登龍祭が開催されました。1日目は、台風の影響であいにくの天気でしたが、開祭式とステージ発表が行われました。吹奏楽やバンド演奏、寸劇やダンスなどで大いに盛り上がり、体育館が熱気で包まれました。

2日目は、午前には仮装パフォーマー、午後には仮装行列を行いました。曇りで蒸し暑い日でしたが、アニメのキャラクター等の衣装を身にまとい、笑顔いっぱい仮装を楽しみました。

3日目は、晴天のもと一般公開が行われました。クラス展示や縁日、ステージ発表など趣向を凝らした内容で来場者を楽しませ、大盛況でした。

最終日の4日目は、教室等の復元作業の後に閉祭式を行いました。仮装行列やクラス・団体企画の表彰があり、最後は全員で校歌を歌って締めくくりました。

生徒会長あいさつ

2年 下重 伶太

今回素晴らしい登龍祭を開催できたこと、多方面の方々に感謝します。

3年に一度の登龍祭はいかがだったでしょうか。生徒にとっては人生に一度しかない大切な学校行事、そんな行事ごとに深く携わることができて、私としてもとても幸せです。それぞれの思いが詰まった最高の文化祭でした。本当にありがとうございました。

実行委員長あいさつ

3年 緑河 由奈

コロナが大幅に緩和されて久しぶりに例年通りの文化祭が開催できたことを改めてとても嬉しく思います。

台風がきていたこともあり文化祭恒例の仮装行列を行えるか不安がありましたが、4日間を通して天候に恵まれ登龍祭を無事開催することができました。生徒をはじめ先生方や保護者の方々、近隣の方々の協力があったこそ文化祭でした。この場を借りてお礼申し上げます。

文化祭実行委員長としての役目を全うできたか私自身不安ではありますが、自分自身の成長や学びに繋がるとも良い経験をさせていただきました。

3年に一度の、全生徒にとって最初の最後の文化祭を運営する側として携わることができ、とても幸せでした。本当にありがとうございました。

「登龍祭テーマ「龍遊」に込められた思い

2年 山口 日和

私がこのテーマを考えた理由は、登龍である私達が遊んでこそ登龍祭の存在意義があると思うからです。

どの時代でも疲れを癒すのは遊びでありその遊びがあるから皆頑張れるのだと思います。

皆さんはこの登龍祭、遊ぶことができましたか？



衣装パフォーマンス最優秀賞

1年5組

みんなで作り上げた一人ひとりの個性豊かな衣装やパフォーマンスで大いに盛り上がりました。楽しい時間をこのクラスで共有し、団結力も深まり記憶に残る思い出を作ることができました。



アーチデザインについて

3年 齋藤 史織

今回、文化祭アーチのデザインが採用されて大変光栄です。白高生の飛躍を願ってデザインしました。少しでもアーチを見て何か感じ取ってもらえていたらうれしいです。

笑顔があふれた最高の文化祭でした。



部活動報告

日本一を目指して 過ごした日々

剣道部 顧問 佐藤裕展

私達剣道部は8月3日から6日まで大分県大分市のレゾナック武道スポーツセンターで開催されたインターハイに女子団体・女子個人(3年 西館藍里)で参加してきました。

結果は、女子団体でベスト8、女子個人で初戦敗退でした。また、後藤ゆうかが優秀選手賞をいただきました。昨年の北海道インターハイ女子団体ベスト16の敗戦から今年こそは日本一になりたいと願い、自分たちの技量不足はもちろん、いろいろな問題があってもその目標だけはブレずに取り組んできました。何があるかと日本一まで突き進むという強い信念を持って歩むことはできたと思っています。これまで過ごした日々の中では、生徒自身はもちろん、支えて来た保護者も、日々不安や葛藤の繰り返しだったと思います。夢や目標を持つことは大切だと誰もが感じていると思います。



ただ、その夢や目標は簡単に手に入らず、今の自分がすごく小さな存在に感じ、苦しい気持ちになってしまふ毎日の繰り返しだと思っています。私はいつも生徒たちに苦しくて目標を修正したいならいつでも構わないと伝えていきます。私自身も日本一を目指さないといけない地元全国大会への日々を2度経験し、その苦しさを重々承知しているのでも、一度決めた目標は最後までとは簡単に言えないと思っています。ただし、自分に実力が無いと感じても、自分自身がこうなりたいという想いがあるのであれば、最後まで何があっても突き進むべきとも話をしています。想いを持って歩むからこそ日々の葛藤があり、仲間との衝

突があり、苦しさが生まれてくることは多いです。それでも歩みを止めないでいられることは本人自身の強い信念だと思っています。私はそこに強さが生まれると感じています。今年のチームは1年の中でいろいろなことがありました。大事な勝負の直前にも何かが起きるチームでした。それでも日本一に向けて歩み続けたチームでした。だからこそ良いチームだったと思います。ベスト8という結果には私も選手も悔しい思いが強いですが、インターハイという一番の舞台で力を発揮できたこと、最後の最後まであきらめず過ごした日々については大変満足しています。次の目標は男女そろって全国の舞台で戦い、自分たちが日本一のチームになることです。目標にはほど遠い現状ですが、1年間かけていろいろな問題に成し遂げたいという強い想いを作り上げて、来年も暑い夏を過ごせたらと思っています。これまで、色々な場面で生徒や保護者を支えてくれた学校関係者の皆さんをはじめ、応援してくれました。すべての方々に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

第71回全国高等学校 剣道大会に出場して

3年 西館藍里

白河高等学校女子剣道部は、令和6年度インターハイに団体戦と個人戦で出場してきました。個人戦は宮城県の小牛田農林高校の江面選手と対戦し、延長戦で面を取られ敗退。団体戦は予選リーグを突破することができました。決勝トーナメント1回戦は、神奈川県桐蔭学園高等学校と対戦し、対の代表戦となり勝利。2回戦は、青森県東奥義塾高等学校と対戦し、対で敗退。結果はベスト8でした。

私たちは全国大会の切符を勝ち取るまでに多くの困難がありました。

ましたが、たくさんの方の支えとともに、仲間とんでも言い合えるような関係となってからはより一層深い絆ができ、壁を乗り越えられたと思います。そしてインターハイで「自信を持って、これだと思ったら最後までやりきれ！」という先生からの言葉はインターハイだけではなくこれからの自分自身の支えになると思います。

最後に、いつも熱心にご指導くださった先生方、自分たちの一番そばにいていつも応援してくれた保護者の皆様、同じ目標を持ち切磋琢磨した仲間たちがいたからこそ今の私がいるのだと思います。すべての方に心から感謝します。ありがとうございました。



支部だより

東京登龍会総会の

近況について



東京登龍会会長

加藤直二(高27)

東京登龍会の令和6年総会は

薫風の5月11日に上野の精養軒で開催され、57名が集い盛況に終了しました。総会には朝早くから多くの会員が受付の準備やご来賓のアテンドなどに駆けつけ、定刻に総会を開始できました。

ご来賓として、井上賢二(白河)副市長、鈴木雅文同窓会会長、増子文隆校長をはじめ、多数の方々をお迎えし、ご挨拶と近況報告、祝意を頂戴しました。紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

今年の総会の特徴として、比較的若手層と女性の参加者が大幅に増えたこと、そして4人に1人が初参加者ということが挙げられます。多くの新しい会員との出会いが実現し、また、緑川祐教頭のご引率のもと新卒者も5名参加し、総会に新鮮さと

躍動感をもたらしていただき、次代を担う層の頼もしさを感じる総会となりました。

東京登龍会は今年で37年の歴史を有し、首都圏に集う白高卒業生の心の拠り所として、多くの卒業生が参加し、様々な形で発展を遂げてきました。これからも多様性を意識し、東京登龍会の価値を次世代につなげていきたいと考えています。

今年の総会の講演では、白河厚生総合病院救急担当部長で福島県立医科大学地域医療支援センター特任教授の安田貢先生をお迎えし、「緊急医療最前線〜災害、ドクターヘリの現場から〜」

という題目で、救急救命医療現場の活動状況と救急時の備えについて貴重なお話を伺いました。一同感銘を受けるとともに、参加者全員が拍手と声援を送りました。

午後の懇親会では、司会者の開会のことばに始まり、新卒者の自己紹介、乾杯、そして懇親会で大いに盛り上がりました。

ご来賓、新卒者、若手、初参加者、24回・27回卒などのグループがそれぞれテーブルを囲み、時間を忘れ親交を深めました。

最後は、庄田育夫顧問による「フレッツ、フレッツ、白高!」の天に響きわたるエール、そして、会場全体が輪になって校歌の大合唱で総会を締めくくり、互いに再会を誓って上野の森を後にしました。

矢祭支部便り

支部長 木村芳朗(高19)

令和5年度の総会を、10月28日にユール矢祭で開催しました。来賓の鈴木雅文同窓会長、矢森健一校長(前年度)、横村勝己同窓会事務局長に参加していただき、会員17名が出席しました。令和4年度の事業報告及び

決算報告、令和5年度の事業計画及び予算が承認され、役員改選では現役員全員の留任と新幹事3名が選任されました。総会終了後に令和2年2月以来の懇親会を行い、初めて酒を酌み交わす方も多数いて、大変有意義で盛り上がった懇親会になりました。次回はさらに多くの会員に参加していただきたいと思

います。また、矢祭支部のLINEをスタートし、各種の連絡や情報発信、意見交換等をしています。この情報により、白河高校吹奏楽部定期演奏会や野球部の甲子園予選の応援に行きました。

西郷支部の近況報告

支部長 金澤隆夫(高23)

西郷支部令和6年度総会を8月23日に小田倉地内の蒼の里で開催しました。石塚次男副会長、横村勝己事務局長、増子文隆校長のご臨席のもと、会員20名が出席しました。

増子校長からは、ご挨拶の中で白高の教育方針、昨年度の進捗状況等についてお話がありました。

総会では、令和5年度事業報告及び決算報告、令和6年度事

業計画及び予算が承認されました。

総会終了後、元支部長の須藤保夫さん(高13)の発声で懇親会に移りました。増子校長のお父さんに英語を習ったという話が出たり、石塚副会長(高26)と同級生が3人もいたり、大変盛り上がりました。また、兄弟との繋がりが分かるなど、同窓という縁を強く実感しました。

同窓会の会員名簿で、西郷村に住所を有する方は1000名以上いるにもかかわらず、総会に出席される会員が20数名で推移し伸び悩んでおり、会員拡大が課題となっています。

和知肇さん(高14)の句
齢重ねて 八十路を越える
老いも若きも 乾杯と



表紙の作品について

『きみは毎日 出發する』



黒須 昇 (高19)

白河高校創立100周年記念式典の折、吾が母校に僕ができることは、絵を寄贈し、その絵を生徒たちに日常見てもらうことと、思いつき、当時の矢森校長に申し出ました。そして、2年後の市立図書館で、大作中心の回顧的な展覧会が開催され、その出品の中から選んだのが、この『きみは毎日出發する』です。世界は美しく、抱いた夢を実現すべく、どんななかでも常に歩み続ける姿を、今と未来しかない白高生に托したのです。そして、印刷された絵ではなく、じかにタブローに接することで、絵画藝術がどのように成立するのか、また画家の生き様や思想をも感知することができるでしょう。この絵を見た人が、自分の知らない世界があり、心が高揚し、精神が解放され、現代に

おける新しい絵画の創造とは何なのかを考える機会になれば、僕にとっては望外の喜びです。

【略歴】

1948年、白河市一番町に生まれ、白河二小、白河二中、白河高校、立教大学西洋史学科を卒業。その後、鎌倉を経て、1978年、パリのモンマルトルに居住し、本格的な画家としての活動を始める。30歳代ではヨーロッパ絵画賞展で金メダルなど重要な賞を受賞。パリと東京を中心に個展が開催され、注目される様々な展覧会に招かれアートフェアに出品される。現在は、パリからコンピエニユ市に移り住み、精力的に仕事を続ける。



6月には市立図書館で展覧会を開催

賛助金納入のお願い

皆様よりお寄せいただきました賛助金は、3頁の予算・決算書にご覧いただけますように本会の活動と母校への援助のために使われております。令和5年度は、248万3,910円をご協力いただきました。感謝申し上げます。

利便性向上のため、昨年より郵便振込に加え、コンビニ振込・スマホ決済(専用用紙が必要)にも対応しておりますので、何卒ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、同窓会報の送付につきましては、かねてより様々な卒回の皆様より送って欲しいとの要望がございましたが、予算都合上、同窓生全員にお送りすることが困難であるため、昨年より従来の送付基準である卒業後20年以上の卒回の皆様に加え、19才、25才、30才、35才となる卒回の皆様に会報をお届けすることといたしました。追加した卒回の皆様には約5年に一度の送付となりますが、賛助金にご協力下さいました皆様には、翌年度も引き続き同窓会報を送付さ

せていただきますので、ご理解下さいますようお願い申し上げます。

賛助金は、1口1,000円
できるだけ2口以上でご協力
ください。

郵便振込

郵便振替番号

021000412774

加入者名

福島県立白河高等学校同窓会
払込人負担はありません。(郵便局の手数料改定により、令和6年1月22日より現金で振込む場合の払込人負担が廃止されました。)

スマホ決済・コンビニ振込

同封の専用用紙(一律2口

2,000円)

払込人負担はありません。

叙 勲 等

令和6年春の叙勲

- 班目秀雄(高14) 旭日单光章
- 須藤千章(高21) 瑞宝单光章

(叙勲、訃報は学校内同窓会事務局にご連絡のあった方々をお載せしました。)

訃 報

- 須永 弘夫(高14) 令5.8.1
- 菊地 貞嗣(中22) 令6.6.14
- 小島 博(高19) 令6.6.
- 曾我 貞雄(中17) 令6.7.17

編 集 後 記

本校では、3年に1度の登龍祭の年。連日台風、豪雨のニュースで心配でしたが、9月1日一般公開日は晴天に恵まれ多くの来場者で賑わいました。各地では甚大な災害発生、先輩諸兄弟の無事をお祈りしております。故菊地貞嗣先生は、かつて同窓会報の編集委員で、今井珠泉画伯の受賞の取材など県外まで活動されていた事が思い出されます。同窓会のホームページも公開され、会報も順次アップしてまいります。会報に関して皆様からのご意見、近況報告などご寄稿をお待ちしております。

会報編集委員会

- 会報担当 金澤 隆夫(高23)
- 同窓会副会長 堀川 哲雄(高15)
- 編集委員長 横村 勝己(高37)
- 編集委員 末永明日香(高62)
- 事務担当(学校) 鈴木 智紀(高66)